別紙様式２（高）

令和６年度　県立鉾田第一高等学校自己評価表

目指す生徒像	高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローカルな視点と行動力を持った生徒		
昨年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
日々の授業や計画的な小テスト・家庭学習用の課題等の実施により、基礎的基本的な知識・技能の定着は見られた。しかし、課題解決的な学習には課題が残る。家庭学習時間においても、目標まで各年次１時間程度足りない状況である。授業の中で適宜ＩＣＴを有効活用し、生徒の学習におけるＩＣＴ活用意識は高まっている。しかしＩＣＴ人材育成に繋がる指導については、体制を検討している段階である。生徒自身が理解度や学習状況を把握し、自らの学習を調整する力を育む取り組みやシステムの構築等により家庭学習時間の増に繋げたい。（教務） 大学入試全般に安全志向が見られ、学校推薦型選抜や総合型選抜で早期に進路先を決定する生徒が多かった。その一方で、最後まで第一志望を貫き、一般選抜で難関校に合格する生徒も	基礎学力・授業の質の一層の向上	・必要に応じてＩＣＴ環境を活用して学習活動の充実を目指すとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しを図る。 ・授業における基礎的基本的な学習を基に、課題解決型の学習に繋がるよう指導を工夫し、平日の最低学習時間＝学年＋１時間を目指す。 ・基礎基本を定着させ、課題解決学習に繋がる知識、技能の充実および継続的な学習姿勢の育成を図る。 ・教員間の授業参観と観点別評価の研究をなお一層推進し、職員の指導力及び授業の質の改善に努める。 ・外部講習や研修会等を活用することで教科指導力向上に繋がる情報を収集し共有を図る。	・授業でのＩＣＴツールの活用が進み、生徒達の学習意欲と参加意識が向上した。今後は、ＩＣＴの効果を測り、必要に応じて改善を行ったり、過度なツールの使用を避けたりすることも考えていく。 ・基礎基本の学習は定着させることができた。次段階として、課題解決学習に向けて、実践的で現実世界に関連する課題の研究をし、積極的に取り組んでいく。 ・指導力向上については、教員間での意見交換を積極的に行うことができている。今後は、外部講習や研修会で得た知識や情報を教員間で共有するための仕組みを構築する。
	個に対応した指導の充実	・生徒観察やＩＣＴ機器の活用等により生徒の実態を的確に捉え、個別最適な学びの促進とともに観点別評価を踏まえた指導の充実を図る。 ・達成可能な目標や題材の設定を行うなど生徒の学習意欲を喚起する授業の工夫を通して、習熟度別授業の指導を充実させる。 ・少人数授業は対話をベースとし、生徒一人一人が主体的に授業に取り組めるよう授業方法の創意工夫を行う。 ・振り返りやポートフォリオ等の蓄積により、生徒自身が各自の課題を把握したり、自己の学習を調整したりする力を身につけさせ、学習改善に繋がる自己指導能力の育成を図る。	・目的に応じた適切なＩＣＴツールを選定し、個別最適な学びの機会を提供することができた。 ・生徒が達成可能な目標を設定し、小さな成功体験を積み重ねることを導くことができた。 ・少人数授業では、生徒同士の対話を促進し、意見交換の場を設けるとともに、各生徒の理解度に応じた指導を行うことができた。

多く見られた。リモートでの面接実施など、試験方法も多様化しているため、正確な情報収集と、きめ細かな対応が必要である。 運動部、文化部ともに加入率が徐々に高まっており、県大会・関東大会・全国大会で活躍した。生徒の主体的活動を促すＨＲ、委員会活動、学校行事についてより一層の内容の充実が必要である。 生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っているが、若干、制服の着こなしが整っていなかったり、ながらスマホが見うけられたりするなど、支援が必要である。また、自主・自立（自律）に欠ける生徒が見られ、自己指導能力の育成が課題である。本校が目指す生徒支援について、全職員の共通理解を図り進めていきたい。（生徒） 情報発信量は増加したが、まだ最新のデータが外部に的確かつ速やかに伝えられていないことがある。学校評議員制度の活用やホームページ、フェイスブック、アンケート(Google Form)などの広報広聴活動を工夫する。 働き方改革については、教員の意識は高まってきているが、超過勤務時間が月45時間を超える教員が月平均約13人いる。ICTの活用、業務の見直しとと	進路意識・進路実績の一層の向上	・本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚および進路目標の達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・新課程入試に対応するため、大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し正確な情報収集を行い、進路支援に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。	・本校の進路指針に則って生徒の進路意識を高めることができた。 ・年次の進路行事を通して、生徒各自の在り方生き方への理解を深めた。 ・個別面談を充実させ、早期に進路目標を明確化させることができた。 ・Webによる分析会等を活用し、最新の進路情報を収集・集約できた。
	特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への積極的参加を促し、ＨＲ・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては、限られた時間で工夫した指導を行い、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。 ・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。	・生徒が積極的に学校行事や部活動に取り組めるよう、多くの機会を設けて支援することができた。 ・昨年よりも多くの部活動が、県外大会出場を果たすことができた。 ・ＨＲにおいて学校行事を振り返り、生徒自身による検証を進めることができた。
	マナーや規範意識の向上	・日頃から生徒と接する機会を多くもち、生徒が教員と相談しやすい関係を構築するとともに生徒理解に努め、すべての教育活動を通して生徒の観察等をすることで、生徒の変化を敏感に察知し、適宜、適切な支援を講じる。	・日頃から生徒が相談しやすい関係を構築し、生徒観察に努めたことで、生徒の変化を早期に発見し、生徒に寄り添い、傾聴し、適切な支援を講じることができた。
	学校評価の充実	・自己評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ＩＣＴを駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。	・自己評価の内容を若干修正。評価方法についてはGoogle ClassroomとClassiの両方の活用が定着した。 ・生徒による小規模学校説明会を神栖市で実施するなど魅力を積極的に発信することができた。
	働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。業務の精選も行い、スクラップを積極的に推進する。 ・ＩＣＴ活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたることができるよう努める。	・月45時間以上の超過勤務者は4月～12月平均16人と昨年同様であった。次年度はさらに業務の見直しが必要である。
	授業改善	・生徒による授業評価アンケートにおける「先生はＩＣＴや板書、資料などを効果的に活用する等、教え方を工夫している。」の質問項目で、校内の平均値を３．６以上にするため、校内授業参観や教科内研修を活性化させる。	・第１回生徒による授業評価アンケートにおける「先生はＩＣＴや板書、資料などを効果的に活用する等、教え方を工夫している。」の質問項目で、校内の平均値は昨年

もに、さらに意識を高めるため、声かけを積極的にしながら超過勤務時間の削減に努めたい。			度第１回、第２回と同様３．５であった。今後の改善に向けて、校内授業参観の活性化を図るとともに、教科内研修のあり方を工夫する。

三つの方針		具体的目標
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	①グローカルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成 ②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成 ③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成 ＜本校生の未来の例＞ ㋐公的な機関で社会を支える。㋑医療従事者として社会を支える。㋒起業して社会を支える。㋓企業内のリーダーとして社会を支える。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	①生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに対応する。 ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する。 ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身に付けさせる。 （理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施）
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	①様々な分野に興味を持ち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②地域の諸課題に関心を持ち、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③主体的に自分の進路実現を目指し、壁を乗り越え、日々努力する生徒 ④礼節を重んじて日常生活を送り、諸活動に積極的に取り組む意欲のある生徒

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	・学習課題の明確化と基礎学力の定着	・シラバス・ポートフォリオを活用し、目標に沿った授業を展開する。	A	A	・ICT を活用のさらなる推進 ・ﾍﾟｱ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動の促進 ・教科内研修を通した授業改善のためのスキルの共有 ・共通テスト対策等、実践的な指導の充実 ・学習段階に応じた論理的思考力の育成
		・基本的事項を確認するため、小テストを実施する。	A		
		・長期休業等を利用した課外の実施で、学習内容の定着を図る。	A		
		・教科内研修会を実施し、指導力および授業の質の向上につなげる。	B		
	・読解力の養成	・文章を考察し、分析する力を養成する授業を展開する。	A		
		・授業や課題を通して、様々な文章に触れることで、国語への関心を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成することに努める。	A		
		・副教材を活用し、評論用語や古典文法など読解に必要な知識の定着を図る。	A		
	・表現指導の充実	・文章を要約したり、意見を述べたりする活動を、授業や課題に取り入れる。	A		
		・各年次と連携し、小論文の指導を展開する。	A		
		・図書館部と連携し、読書感想文コンクールへの参加を促す。	A		
地理歴史公民	・ICT を活用した学習指導の研究	・社会的な事象等について調べまとめる技能の育成を図り、学びの質の向上に努める。	B	A	・ICT 活用のさらなる推進 ・教科内研修を通した授業改善と工夫 ・生徒理解を踏まえた適切な課題設定と適切な声かけによる学習
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・１・２年次では「授業第一主義」のもと、学習態度を涵養し、基礎的知識の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力の育成に努める。	A		
		・３年次では「授業第一主義」のもと、課外授業・後期時間割・学校設定科目を通して、個の進路に応じた学力向上に努める。	A		

		・小テストを実施して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握しながら授業を計画する。	A		支援
		・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」の展開に努める。	A		
		・教員研修講座等の受講や定期考査等の作問方法の工夫を通し、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。	A		
		・進路実現を図るため、担当者間による模擬試験結果の分析を行う。	A		
	・現代の社会への関心の高揚	・テーマを定めた主題学習を展開し、現代の社会への興味関心を高めさせる。	B		
数学	・きめ細かな授業の展開	・少人数授業や習熟度別授業の実施により、目の行き届いた丁寧な指導を実践し、基礎基本事項の確実な定着を図る。	A	A	・継続的な教科内研修を通した授業改善のためのスキルの共有 ・習熟度・受験型に応じた丁寧な指導 ・考査で十分な点数がとれない生徒に対する補講課外の実施 ・模試や入試に対応する力を伸ばす上位者向けの課外（１、２年次） ・共通テストを見据えた実践的な問題演習と丁寧な解説（３年次）
	・家庭学習習慣の確立 応用力の養成	・１、２年次：毎日の復習としての課題に教科書傍用問題集を積極的に取り入れ、基礎の定着を図るとともに、必要に応じて応用問題にも慣れさせる。	A		
		・３年次においては、文系理系それぞれの課題を自ら解くことにより、家庭学習時間の増加と学習内容の定着を図る。	A		
	・習熟度、進路希望に応じた指導	・２年次の数学ⅡBにおいて文系：教科書の基本事項、理系：教科書～参考書（黄チャート）の内容の定着を目標とし、習熟度に応じた指導を徹底する。	A		
		・３年次では、５・６組を２分割し、受験型(ⅡB・Ⅲ)に対応した授業を展開する。	A		
	・意欲ある生徒への指導	・１年次：長期休業中の課外授業において難度のやや高い問題を精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。	A		
		・２年次：長期休業中の課外授業において習熟度に応じて基礎の確認から応用問題までを精選・提供し、意欲ある生徒の数学力の伸長を図る。上記に加えて、希望者に対して放課後の課外授業を行い、実力養成を図る。	A		
		・３年次理系の数学Ⅲ選択者に対しては、数学Ｃと併せて一貫して数学Ⅲの実力養成を図る。	A		
		・放課後等に質問に訪れる生徒には担当年次の枠を越えて随時対応する。数学研究室をその環境として整備する。	B		
	・指導技術の向上 指導方法の工夫	・担当年次の枠を越えて日頃より各種問題の解法についての研究や意見交換、授業参観を行い、指導力、指導方法の向上を図る。	B		
		・電子黒板などのICT機器のより効果的な活用法を研究する。	B		
理科	・学力の向上	・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し、課外を充実させる。	A	A	・ICTを活用した授業展開や課題の配布および回収方法の工夫 ・長期休業中の効果的な課外授業の実施方法の検討 ・限られた時間の中で生徒実験や演示実験を実施する工夫 ・実験室の整理と適切な薬品管理 ・効果的な共通テスト演習の実施
	・設備、備品の充実	・各科目で内容を精選し、充実した実験・実習を実施する。	A		
		・実験・実習による学習によって、体験させて興味関心を持たせ、学習意欲を持続させる。	B		
		・設備備品を徐々に整備し、学習環境を良いものにしていく。	A		
	・指導力の向上	・共通テストに対応できる授業のあり方を研究する。	B		

保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B	A	・自主的・自発的活動を充実させる指導方法の工夫 ・社会性やよりよい集団を形成する意識を育む指導方法の工夫 ・ICT を活用した授業展開の工夫
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A		
	・選択授業の充実	・選択授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。	A		
	・規範意識の遵守	・授業を通して、ルールやマナー及び時間や安全を守る態度を養う。	A		
	・副教材を利用した授業の工夫	・保健ノート、パワーポイント、DVD などを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。	A		
芸術	・主体的表現活動	・芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	A	A	・様々な表現方法の技術指導 ・個々の感性、技術力の育成 ・相互鑑賞での科目間のさらなる交流 ・ICT を活用しての授業や振り返りでの自己指導能力の育成
		・創造的な表現を工夫し、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることが出来るようにする。	A		
		・シラバスをとおして課題への準備を促し、振り返りをとおして自己指導能力の育成を図る。	B		
		・ICT を活用した授業の展開を図り、授業への積極的な参加を促す。	A		
		・鑑賞に関する資質・能力を育成する。	B		
	・芸術を愛好する心の育成	・生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	A		
		・上級進学をめざす者へ補習等を実施し、個々の力を伸ばす。	A		
		・個人指導の充実を図り、添削や助言等を示す。	A		
英語	・シラバスを活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立	・シラバスを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。	A	A	・少人数体制による個に応じた丁寧な指導 ・共通テスト対策を含めた実践的な指導 ・主体的に生徒が学習できるペア・グループ活動の促進 ・学習段階に応じた論理的思考力の育成 ・家庭学習時間の増加と習慣付け
		・シラバスの内容をさらに充実させ、生徒にとっては利用しやすく教員にとっては指導目標が共有できるものとする。	B		
		・意欲的に英語学習ができるよう英検、ＡＬＴの活用を促す。	A		
		・確認テスト等を適宜実施し、学習の習慣化を一層図る。	A		
	・生徒の多様な学力に応じた指導の充実	・１年次：少人数授業の利点を生かし、予習・授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる４技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。	A		
		・２年次：各科目で課題を工夫し家庭学習につなげるとともに自立学習できるよう促す。「話す」・「書く」のアウトプット活動を行い適切に評価することで４技能を総合的に伸ばすことに努める。	A		
		・３年次：家庭学習と授業を接続し、科目の特性に応じて、予習・授業・復習のサイクルをまわすことで、主体的な学習スタイルを確立する。入試を見据えた実践問題も多く扱い、英語得点力の向上に努める。	A		
		・成績下位者へのフォローを補習などで確実に行う。	A		
	・生徒の希望進路に応じた様々	・進路実現のための英語力向上を目的とした指導に加え、個々の学習到達度を確認する	A		

	な指導と実践	ための単元テスト、パフォーマンステスト等を実施する。			
		・英検、模擬試験等を有効に活用しながら、共通テストにも対応する英語力の育成を意識した指導を実践する。	A		
		・目標校の問題傾向を意識した指導、レベルに応じた問題演習を行う。	A		
		・教科内で情報交換を深め、指導目標を共有し、３年間を見通した上での指導が展開できるよう協力し、同時に各人が個々の指導力の向上を目指す。	B		
		・授業における効果的な指導法・評価方法について、研修会参加等を通じて研鑽・研究を進める。	B		
	・英語４技能の向上	・全ての年次において、ＩＣＴをうまく活用しながら、「聴く･話す･読む･書く」の４技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践する。	A		
		・３年次では特に論理的に考え、社会的な事柄について英語で表現する能力を伸ばす。	A		
家庭	・生活を主体的に営むために必要な基礎的知識と技能の習得	・生活実態に応じた実践的・体験的な活動を多く取り入れ、生活に関する基礎的知識と技能を習得できるようにする。	A	A	・体験的な活動を取り入れた授業展開 ・個に応じた支援 ・実生活での課題を見いだし、解決を図る学習の実施
		・個に応じた指導を行う。	A		
	・自分や社会、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的態度の育成	・ＩＣＴ機器を活用して、生活情報を積極的に取り入れることができるようにする。	B		
		・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだし、解決を図る学習を通して生涯を見通して生活課題を解決する力を養う。	A		
情報	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。	A	A	・データ活用能力の育成 ・理論と実践の往還を意識した授業展開
	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分に配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を涵養する。	B		
教務	・授業時数の確保	・授業時間を確保するとともに、カセットの実施時間も含め可能な限り曜日毎の授業時数の均等化を図る。	B	A	・日課変更に対応した曜日等の授業時数の均等化および計画的、効率的な授業推進、授業時間の確保 ・日課や教育課程の継続的な検証および改善 ・年間を見通した上での行事計画の作成、見直し
	・教師の学習指導および生徒の学習の取り組み方の研究と改善	・ＩＣＴ機器を積極的に活用し、生徒の主体的・対話的な授業を通して、より深い学びに繋がる授業展開の方策を研究する。	A		
		・「授業評価アンケート」を実施・分析し、教師の学習指導法や生徒の学習の取り組み方の調整を行い、教師、生徒双方のより意欲的な指導および取り組みに繋げる。	A		
		・「教科内授業研究」（年３回）や「生徒による授業評価」（授業アンケート）を実施することで実態に即した効果的な学習指導方法の研究と改善に繋げる。	B		
	・進学重視型単位制の充実	・新日課および教育課程が本校生の進路実現に繋がる時代や地域のニーズに対応したものとなっているかを検証し、一層のカリキュラム・マネジメントの推進を図る。	B		
		・少人数授業・習熟度別授業におけるグループ編制の工夫などをとおして、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。	A		

	・行事等の円滑な運営	・各分掌との連絡を密にし、学校行事の日程や日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。また、行事ごとに改善点を確認し、次年度への運営に反映させる。	A		
	・成績等の円滑な処理	・総務企画部と連携し、統合型校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。	B		
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動を積極的に発信し、附属中を含めた「鉾一ブランド」の確立	・スクールガイド、ポスターの作成	A	A	・災害時（台風、降雪等）の情報資産の管理、運用 ・全職員が安心、安全に情報資産を利用できる環境の整備 ・令和７年10月のWindows10サポート終了に伴う校務用端末機器等のスムーズな更新 ・学検、入選前の広報活動の活発化（ポスター、学校説明会&mini 文化部発表会、中学校での進路説明会、 Facebook 、ホームページ 等） ・土曜日実施を試みた学校公開における教務部との管理運営
		・プロモーションビデオの活用	B		
		・中学校、学習塾訪問の実施	A		
		・進学フェアへの参加	A		
		・オープンキャンパス（中学生対象）の企画、運営	A		
		・学校公式ウェブページの内容の充実	A		
	・本校に対する外部の声の収集	・学校評価アンケートの実施、集計、分析	B		
	・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用	・事務室と連携し、校内の各セグメントの効率的な運用と管理を目指す。	B		
		・情報端末機器（ＰＣ・タブレット）の保守・管理に努める。	A		
		・緊急情報メールシステムの有効な運用に努める。	A		
		・校務支援システムの管理・運営を行い、有効な運用に努める。	A		
		・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。	B		
		・茨城県教育情報ネットワークの教員用アカウントならびに生徒用アカウントの管理・運用に努める。	A		
生徒支援	・安心安全に学校生活が送れるような生活環境の整備 ・スマートフォンの適切な利用 ・基本的生活習慣の確立及び規範意識の高揚（自己指導能力を高める） ・各年次学年、各部署等と連携し、事件事故等の未然防止と早期発見・初期対応	生活関係	A	A	・安心安全な生活環境の整備（いじめのない学校づくりの推進） ・ながらスマホ、スマホの不適切な利用に対する指導強化 ・自己指導能力の育成 ・教員間の報告、連絡、相談の徹底 ・問題行動に対する初期対応 ・生徒（会）とのルールメイキングの継続 ・スクールバスの安全な運行のサポート ・交通事故防止の指導
		・各年次、各学年で共通理解を図り、服装・頭髪指導を実施する。	A		
		・集会、ＨＲ等で、ルールやマナー・モラルについての意識の啓発を図る。	A		
		・登校指導を実施し、正しい制服の着こなしや挨拶の励行を図る。	A		
		・さわやかマナーアップ運動を通して、マナーについての意識の啓発を図る。	A		
		・遅刻カードを活用し、遅刻者の減少及び時間厳守の意識を育てる。	B		
		・貴重品の自己管理及び移動教室時の施錠を徹底させる。	A		
		・インターネット安心安全利用講座を実施し、スマートフォンの適切な利用について指導する。	B		
		問題行動未然防止対策	A		
		・ハートフルアンケートを実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。	A		
		・薬物乱用防止教室の実施。	A		
	・スクールバスの円滑・安全な運行の確保 ・登下校時の交通事故防止	交通関係	A		
		・運行計画の策定及び乗降指導を実施し、安全な運行を確保する。	A		
		・原付バイク通学者に対する定期的な交通指導の実施。	A		

		・原付バイク実技講習会の実施。	A		
		・自転車点検及び交通安全指導の実施。	A		
		・交通安全講話の実施。	A		
教育相談	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報	A	A	・相談室だより等による広報活動 ・アンケートの実施と分析・検討 ・スクールカウンセラー、校内関係者との連携の援助 ・校内研修会実施
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討	A		
		・会議等での情報収集	A		
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング	A		
	・適切な援助活動の実施	・援助が必要な生徒との面談・必要に応じて保護者との面談	A		
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助	A		
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整	A		
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議	A		
	・教育相談研修	・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施	A		
進路指導	・３年間を見通した体系的な進路指導の実施	・定期的に部会を行い、３年間を見通した進路行事の計画的な運営について調整する。	A	A	・各年次および他の分掌との綿密な連携による進路行事の運営 ・模試分析における各年次および各教科との情報共有 ・放課後・長期休業中の課外授業の計画的実施および効果の検証 ・進路支援に関する附属中学校と高校の連携強化
		・１年次では進路講演会・職業講話等を通して進路適性の把握と職業観の育成に努め、進路実現のための視野を拡大させる。	A		
		・２年次では進路講演会・大学出張講義・卒業生と語る会等を通して学部学科研究などの進路知識を拡大させる。	A		
		・３年次では進路検討会議等を通して生徒の進学希望を各教科担当者間で共有し指導に活かすとともに、面接・小論文指導等を充実させ、生徒の多様な進路目標実現を支援する。	A		
	・進路情報の収集と提供	・各年次や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報の共有化を図る。	A		
		・生徒面談等を通して、生徒の動向の把握に努め、適切な情報提供を行う。	A		
		・高大接続改革や共通テストに関する情報の収集と分析を行い、指導に活かす。	A		
		・『進路資料』や『進路便り』の発行や情報誌の配布などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	A		
	・学力向上	・平日の家庭学習時間「学年数＋１時間」、休日の家庭学習時間「学年数＋２時間」を最低ラインと位置づけ、家庭学習計画表等を活用しながら、家庭学習の習慣化を図る。	A		
		・放課後・長期休業中の課外や土曜講座等の特別講習の充実を図る。	B		
		・授業力向上のため、長期休業中に実施される教育研修などへの参加を勧める。	A		
	・学習環境の整備	・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。	A		
	・附属中学校との連携	・附属中学校と連携し、中高一貫の進路指導の方法について検討を進める。	B		
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、 生徒が主体的に企画・運営に関わ	A		・実行委員や生徒会役員を中心とした生徒による主体的な山王祭

		れるように支援する。また、キャリアパスポートを利用し、学びの蓄積および振り返りを行う。		A	やクラスマッチの運営に対する支援 ・校則見直しの検討に際して生徒会役員が作成したアンケートによる全校生徒の意見集約 ・応援委員、集会委員による野球応援や集会の準備と運営 ・部活動加入率のさらなる上昇（昨年度 77.2%今年度 79.0%） ・校内外で実施の学校説明会における各部活動の発表および活動成果の報告 ・教室以外でのHR活動を促すための施設利用の希望調査と調整
	・生徒会活動の活性化	・生徒会役員が生徒代表としての自覚を持ち、各種行事の開催にあたってリーダーシップを発揮し、他の生徒を啓発し牽引できる力を育てる。また、 附属中との連携を図る。	A		
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。	A		
	・部活動の活性化	・部・同好会への加入率 80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」により啓発する。	B		
		・それぞれの部・同好会の特性を活かし、各種大会・発表の場への積極的な参加を促すことで、活動範囲を広げられるよう支援する。	A		
		・日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。	A		
	・HR活動の充実	・学校行事や進路指導に伴うHR活動だけでなく、レクリエーション等、各HRならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動を通して協調性や団結心を養う。	A		
保健安全	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断の実施等により、健康状態の把握と的確な保健指導を行う。	A	A	・保健相談、保健指導および保健室運営の充実 ・清掃活動および環境整備の充実 ・安全防災対策の工夫と充実 ・各種報告事項の的確な遂行
		・適切な応急処置と保健相談活動を実施する。	A		
		・『保健室関係資料』を周知し、保健室運営を円滑にする。	A		
	・清掃活動の徹底	・清掃活動を励行し、校舎内外の美化・環境問題への意識を高める。清掃用具の充実を図る。	B		
	・防災意識の高揚	・『危機管理マニュアル』を更新し、防災訓練を遂行する。	A		
	・環境衛生の整備	・学校薬剤師の助言のもと、環境衛生検査を定期的に実施する。	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・各年次・各学年、各担任の協力を得て記録、報告をする。	A		
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・部活動、各年次・各学年と連絡を密にして有効に活用する。	A		
図書館	・資料の整備充実と情報化の推進	・教育課程等の展開に即応した資料の充実を図る。	B	A	・図書廃棄の推進および図書資料の更新 ・書架整理の推進 ・レファレンスサービスの充実 ・委員会活動を通じた広報活動の工夫
		・購入希望図書の調査を実施し、利用者に沿った図書構成に努める。	A		
		・より良い図書を選定するための情報収集を行い、バランスの取れた蔵書構成を目指す。	A		
		・小論文関連の情報と資料を更に充実させ、関連図書リストも更新する。	B		
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。	A		
	・図書館利用の促進	・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施する。	A		
		・読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	A		
		・適切な利用態度を養い、自学自習の場としての活用も推進する。	A		
		・読書関連のイベントを企画し、読書への関心を高める。	A		

		・レファレンスサービスの充実を図る。	B		
	・委員会活動の活性化	・生徒図書委員を図書館報やミニ図書館報の作成、図書の展示等に関わらせ、自主性を養う。	A		
		・図書館当番や館内整備作業を通じて、責任感や奉仕の心を育む。	A		
		・生徒図書委員研修会（県東・中央）に参加し、各高校との交流により委員会活動をさらに充実したものにする。	A		
渉外	・学校と家庭の交流の充実	・学校行事への保護者参加率を上げ、本校に対しての理解を深めてもらう。	B	A	・さわやかマナーアップの実施 ・文化祭グッズ製作 ・保護者、生徒会、教員との連携
	・状況に応じた事業の遂行	・状況に応じた対応ができるよう、関係者や関係部署との綿密に連携をとる。	A		
	・さわやかマナーアップ運動の実施	・保護者・生徒支援部・特別活動部と連携し、挨拶運動を行う。	A		
１年次	・基礎学力の向上	・義務教育段階の学習内容の定着度にあわせ、目標の設定と振り返りを通して個々の生徒に応じた基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。	A	A	・基礎学力の向上と学習習慣の確立 ・自己管理、自己抑制能力の向上 ・社会との連携、協働する取り組みの充実 ・探究活動における手立ての工夫と見通しをもった指導の確立
	・自己管理能力の形成	・基本的生活習慣を土台としたマナーやモラルを大切にする態度を涵養し、人間関係形成・社会形成に欠かせない自己管理・自己抑制能力を形成する。	B		
	・自己理解・社会理解の促進	・総合的な探究の時間を中心とした課題解決型学習を通して、社会と連携・協働しながら取り組みを充実させることで自己理解・社会理解を促し、生涯にわたるよりよいキャリア形成の基盤を作る。	A		
	・自己肯定感の発揚	・個人面談や部活動、特別活動への積極的参加を通して、自己肯定感につながるような充実した学校生活への取り組みを目指す。	A		
２年次	・基本的な生活習慣の確立	・基本的な生活習慣を確立させるとともに、スマートフォンやタブレットの使い方について、生徒自身が有効な活用方法を判断できるよう支援する。	A	A	・基本的な生活習慣の確立とスケジュール管理の定着 ・進路知識の拡大と自身の将来像の具現化 ・学習習慣の確立と学習への主体的継続的な取り組みへの支援 ・様々な行事や探究活動を通してのキャリア形成の基盤の創造
	・進路指導の充実と進路目標の決定	・大学企業見学会、大学出張講義、卒業生と語る会、オープンキャンパスへの参加を通し、進路知識の拡大と自身の将来像を具体化する。	A		
	・進路実現に向けた学習習慣の定着と学力の向上	・知識の理解・定着を促すため、予習・復習を柱とした学習習慣の確立と手帳等を利用した自己管理、計画を立てて実行する力の伸長を図る。	A		
		・高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図るため、授業を第一とし、Classi や模試の復習に主体的・継続的に取り組ませる。	A		
		・課題超過とならないよう、年次内で情報共有を図る。	B		
	・特別活動への積極的参加 と総合的な探究の時間を 通した社会の当事者意識の涵養	・多面的な生徒理解に努め、部活動や学業、探究活動における情報交換を密にし、個々の生徒が力を発揮して活動できるよう支援する。	A		
		・探究活動や沖縄修学旅行を通して興味関心を深化させるとともに、社会とのつながりを意識させ、生涯にわたるキャリア形成の基盤を作る。	B		
３年次	・進路実現に向けた学力の向上	・面談や日常的な関わりによって生徒の進路希望を把握し、支援を適切に行う。	A		・生徒の進路実現に向け、多岐にわたる仕事の分担、情報共有の仕
		・課外授業や個に応じた学習支援。	A		

		・授業第一とし、学習アプリ(Classi・スタディサプリ)や模試の復習にも主体的・継続的に取り組ませることで、高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図る。	B	A	方の工夫、進路行事の機会の検討や学習支援ツールの活用。 ・生徒理解に努めながら、社会の形成者として、自己管理能力の向上を図る支援。
		・生徒の小さな違和感を見逃さないよう平常時の生徒理解に努め、年次職員間の情報交換を密に行う。	A		
	・自己管理能力の向上	・身なりや態度についての日常的な支援を通して、マナーやモラルを大切にする態度を涵養するとともに、社会の形成者として欠かせない自己管理能力を向上させる。	B		
		・情報を取捨選択する能力を育み、権利と責任を有する成人として生きるにふさわしい社会観や人生観を醸成する。	B		

※　評価基準　　A：大変良くできた　　B：良くできた　　C：普通　　D：やや不十分　　E：不十分